

12 通りから選べる直売所の切り花向け新技術の活用法

直売所の増加にともない切り花の販売は伸びていますが、需要が盆等の物日や休日に集中し、売り切れや売れ残りが生じやすいことが課題となっています。この課題を解決するため一連の需給調整技術が開発されました。これら技術の活用法を、直売所や生産者の状況に応じて選択できるパンフレット「直売所の切り花向け新技術 12 通りの活用法」として取りまとめました。

☆ 技術の概要

1. パンフレットでは、1)「需要量予測」や2)「開花日予測」をした上で、3)「蕾期一斉収穫」して、4)水に糖等を加えた「開花液」を吸収させながら、5)「開花室」で、6)その室温を家庭用エアコンで調節することによって「開花調節」する一連の6つの新技術を紹介しています(図)。さらに、これらの新技術を組み合わせた12通りの活用法(表左側)と、2つの利用事例を解説しています。対象品目は表右側の通りです。

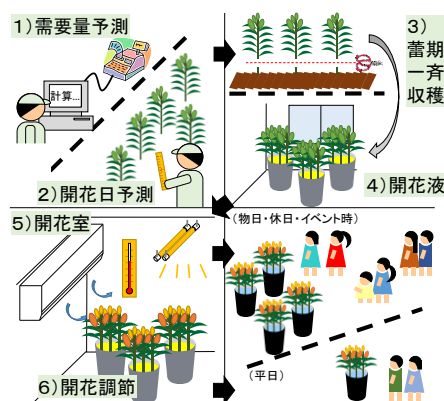


図 6つの新技術(活用法a)
注:「a」は、新技術6つ全てを常時使用する活用法である。

2. 生産者向けの活用法は、a. 常に需要量予測して開花調節し出荷(図)、b. 物日など特定日に開花調節して出荷、c. 異常気象等による開花時期のズレを調整して出荷、d. 開花調節等により出荷時期を拡大、e. 開花室により悪天候を回避、f. 一斉収穫により収穫・調製作業を効率化や調整、g. 一斉収穫により次作のため早期にはほ場を片付け、h. 開花日予測して出荷先を検討、の8つです。直売所向けは、i. 蕾で集荷して直売所が開花調節して物日等に商品を確保、j. 技術を実演して導入を推奨、k. 需要と供給の両方を予測して出荷要請や販売促進、l. 需要のみを予測して出荷量の目標を提示、の4つです。

表 12通りの活用法の各切り花への対応と用いる新技術

12通りの活用法 (略称)	用いる新技術の組み合わせ						切り花への対応	
	需要量 予測	開花日 予測	蕾期一斉 収穫	開花液	開花室	開花 調節	対応している品目	対応しているが 難がある品目
a (需給調整)	○	○	○	○	○	◎	ユリ	小ギク、ナデシコ
b (特定日開花)		○	○	○	○	◎	ユリ	小ギク、ナデシコ
c (ズレ調整)		△	○	○	○	○	ユリ、小ギク、ナデシコ	トルコギキョウ
d (時期拡大)			○	○	○	○	ユリ、小ギク、トルコギキョウ、ナデシコ	
e (悪天候回避)			○	○	○		ユリ、小ギク、ナデシコ	
f (作業調整)		△	○	○	○		ユリ、小ギク、トルコギキョウ、ナデシコ、バラ	
g (ほ場片付け)			△	○	○		ユリ、小ギク、トルコギキョウ、ナデシコ	
h (出荷先検討)		○					ユリ	小ギク、ナデシコ
i (商品確保)		○		○	○	◎	ユリ	小ギク、ナデシコ
j (技術実演)				○	○	△	ユリ、小ギク、トルコギキョウ、ナデシコ、バラ	
k (需給予測)	○	○					ユリ	小ギク、ナデシコ
l (需要予測)	○						ユリ、小ギク、トルコギキョウ、ナデシコ、バラ	

注:「用いる新技術の組み合わせ」の「○」は必要、「◎」は特に重要、「△」は場合によっては有効な技術であることを示す。

☆ 活用面での留意点

本パンフレットは農研機構マネジメント技術 (<http://fmrp.dc.affrc.go.jp/>) のWebサイトからダウンロードできます。(農研機構北海道農業研究センター 水田作研究領域 吉田晋一)